

地方  
小出版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター  
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20  
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

## 2010年「首都圏出版人懇談会」研修会 電子書籍と紙の本のこれから



講師：星野渉氏 (株)文化通信社 取締役編集長

首都圏出版人懇談会が2010年12月10日、「電子書籍と紙の本のこれから」と題し研修会を開催した。講師に(株)文化通信社・取締役編集長の星野渉氏を迎え、電子出版の現状と今後の動向について報告をしていただき、参加版元関係者約50名が熱心に耳を傾け盛況な研修会となった。



まず、星野氏が電子書籍元年と言われた昨年の状況について、「新しい市場ができたという意味では良かった。が、その実態はなきに等しい。元々本好きのマスコミ人が騒ぎすぎた印象だ」と指摘。インプレスR&Dの調査によると、電子書籍市場は574億円との報告があるが、その9割がケータイ向けコミックスで、内容的には「BL(ボーイズラブ)」と「TL(ティーンズラブ)」であり、文字コンテンツの流通・消費という面では、まだまだ市場が育っていないと指摘した。

### 「第1回アジア太平洋デジタル雑誌国際会議」が刺激に

ただ電子書籍への関心が急激に沸騰したのは事実。その背景には、近年の雑誌販売の落ち込みがあったと星野氏は指摘する。雑誌媒体への広告出稿が激減するなか、「第1回アジア太平洋デジタル雑誌国際会議」が2008年11月東京で開かれ、海外出版社の先進的な取り組み事例が多々報告された。日本国内の大手出版社がこれに大きな刺激を受け、2009年には、この流れを

受けて雑誌コンテンツデジタル推進コンソーシアムが活動を開始。翌年には配信の実証実験もはじまった。

### アップルの『iPad』が発売、雑誌社が大いに注目した

「まず大手の営業担当者が結集し、コンテンツの権利処理や広告を入れたビジネスモデルの探求がはじまった。そこへアップルの『iPad』が発売になり、その機能性にかかなりの衝撃をもって受け止められ、雑誌社が大いに注目した結果、デジタルでも儲けられると踏んだ」と星野氏。

先例としてファッション誌『VOGUE』などがいち早くiPad対応版を出したことも後押しとなったようだ。ただ実際のビジネスの観点からすると、iPadではすべてのページを読者に見てもらえない、埋め込んだリンクを辿ってもらえない、といった課題もあり市場性の存在は認めるも「今後どうなっていくかは不透明」という。

では何故そうした雑誌の状況を踏まえつつも、次に書籍の電子化の流れへと波及してきたのか——。実は日本ではCD-ROM出版は20年以上前から始まっており、家電メーカー主導の端末もあった。業界では「電子文庫パブリ」を立ち上げてもいた。ただ実際商売になっておらず、ある面、防衛的な業界姿勢も見え隠れしていたのが実情だった。

しかしグーグル、アマゾン、アップルなどの外資が米国で先行して始めていたビジネス動向や、日本の国立国会

図書館の蔵書の電子化に予算が付いたことがニュースになったりと、多くの人々がメディアやネットを通じ電子書籍の動向を知るにいたり、その動きに注目が集まり一挙に国内で弾みがついた。

### 関係省庁が一気に調整に動く

この状況に対応するため関係省庁が一気に調整に動いた。

その結果として「デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会(三省デジ懇)」での討議内容がまとめられ2010年6月に報告書が出た。「ものすごいペースで委員会が開かれ、白熱した議論が交わされた」と星野氏。ただしステークホルダー(利害関係者)の中に何故か取次関係者が入っていなかった。(※編集注：この三省デジ懇の討議報告書(A4判、76頁)は、総務省サイトにて公開(pdf文書)されているので未読の方はぜひ一読されることをお勧めする)。

さらに総務省、文部科学省、経済産業省が個々に関連する事項に関して検討・討議を重ねており、今年度中には具体的な方針が決まる手はずとなっている。

### 日本雑誌協会が「デジタル雑誌配信権利処理ガイドライン」を公開

一方、業界に目を転ざると、著作者との契約に関しては、すでに日本雑誌協会が「デジタル雑誌配信権利処理ガイドライン」を公開。クリエイターからの権利譲渡に踏み込んだ内容となっている。

また日本書籍出版協会が電子出版に対応した「出版契約書ヒナ型」を作成しサイトで公開している。「出版データは出版社に帰属すると明記。自分たちがしっかり管理していこうという意

志の表明だ」と星野氏は指摘する。  
 印刷業界では、30年前から制作過程の電子化が実現しており、じつはいつでも電子出版が可能な体勢だ。軸となっている大日本印刷と凸版印刷は協調して動いている模様で環境は早急に整うとの見方が強いという。

**複数の事業モデルが目白押し**

事実昨年秋から年末にかけて、シャープが「ガラパゴス」、ソニーも「Reader」を国内投入し端末発売と同時に配信サービスを開始した。出版業界でも角川グループが「BOOK☆WALKER」、紀伊國屋書店が「BookWebPlus」として配信サイトを立ち上げた。今後も家電メーカー、印刷会社、携帯電話会社、新聞社なども絡んで複数の事業モデルが目白押しとなっている。

かたや Google が「Google エディション」を今後開始する予定で、どうやらこれがクラウド型サービスとなる模様で、読者の立場からすると端末に限定されない閲覧が可能という点で大きなメリットになりそうだ。アマゾンも「Kindle」でさらなる追撃は確実、アップルも絡んで外資勢力は厚い。

これまで述べてきたように今後、電子書籍の制作から権利処理、販売チャンネルの拡充が整うのは確実で、昨年は10万ダウンロードを達成した『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』（ダイヤモンド社）や、電子版先行で話題となり後に紙版も出た『世界で一番美しい元素図鑑』（創元社）など活況への兆しはあった。

しかし実際のところ出版社の立場からすると、現状をどう冷静に判断したらよいのだろうか。星野氏はこう指摘する。

「確かに万単位を超えるダウンロード数を上げた商品もあるが、多くはほとんど売れていない。書き手の反応にも落差があり、出版社とともに進めたい穏健派から、作家自ら配信サイトを立ち上げるケースまである。ジャンルで言えばビジネス書の書き手は、電子書籍の取り組みに積極的」と。

**出版社には実務面や制作面で悩み**

出版社の悩みとしては、電子書籍は

実売カウントによる印税支払いが原則なのでシステム化されていない現状では手計算となりそれが煩雑のようだ。また商品管理コードも別途必要で商品マスタをどう作ったらよいのかも手探り状態のようだ。

制作面では、どのファイルフォーマットで最終ファイルを保存しておけばよいのかという問題がある。読者の閲覧用フォーマットとしては、「ドットブック」「XMDF」「EPUB」「PDF」のほか、「Kindle」などの独自フォーマットも含め多様にあるが、現在討議中の中間（交換）フォーマットさえ決まれば、それを介してどのフォーマットにもマルチ展開（変換）できるようになると言われているが、この点はいまだ確定的な事項とはなっていない。出版社としては、早く決めてほしいというのが本音だろう（※図参照）。

著者との契約も慎重にする必要がある。例えば書協のヒナ型を慣用して一旦契約すると、電子版を出す義務を負う。「電子版を出すつもりがないのなら、その条項を外すほうがよいだろう」と星野氏はアドバイスする。

校了済みデータの管理も問題となろう。だれがどのようにやるのか。点数が多くなればコストもかかる。さらに写真や動画などを使った「リッチコンテンツ」作成には自社でノウハウがなければ外注することになり、これもコスト高になり出版社にとってはけっこうハードルが高い。

**単に電子に置き換えたのでは売れない。ニーズが変化を誘う**

では今後、出版社がすすむべき道というのはどのように開かれているのだろうか。星野氏は以下のように指摘する。

「単に電子に置き換えたのでは売れない。例えば辞書や地図は検索の実用性が着目されいち早く成功を取めた。なので使用価値というかニーズが変化を誘う。その意味では文字中心の小説



▲電子書籍交換フォーマット標準化プロジェクトのサイト (<http://ebformat.jp/>)。現有の仕様書案 pdf がダウンロードできる

などは違う世界だ。こうしたジャンルでは普及に相当の時間がかかるだろう」と。

さらに米国ミシガン大学での図書館購入例を紹介。同大学では目的の出版物は、まず電子出版物から購入され、電子版がなければ紙版の購入となるそうだ。この例からも分かるとおり、日本でも大学や公共図書館向けの「BtoB」から電子出版物の普及がすすむのではないかと言う。事実、大日本印刷はすでに電子図書館ビジネスに着手しており、この流れは確実にくと星野氏。学術・専門書分野の出版社は、そろそろ具体的な対応を取る時期にきているようだ。

最後に電子出版における「出版者」の役割について星野氏が持論を展開。

「電子化されても出版者の役割はなくならない。ただし歴史をみれば明らかのように明治以降、出版は活況を呈し製作も流通も大きく変化し今に至っている。今こそ基本に戻り、読者が利用しやすいように作品を商品化し、購入しやすい方法で販売し、読者に伝えていくことが大事。これを実現したものが次代の出版を担う。その意味から出版の担い手は変化していくだろう。付言すれば編集はもっと面白がって本をつくるべきだし、出版者はマーケティング力をもっと磨く必要があると感じている」

(了)  
 (講演まとめ：えびすまさのり／フリーランスライター)

# 売行良好書

期間：2011年2月16日～3月15日

## 〔出荷センター扱い〕※税込み価格

- (1)『クラゲに学ぶ』2520円・長崎文献社 (2)『大場栄と峯子の戦火のラブレター』1890円・これから出版 (3)『おかあさんもようちえん』1500円・絵本で子育てセンター (4)『赤いおおかみ』2415円・古今社 (5)『ベターホームの朝ごはん』1000円・ベターホーム出版局 (6)『まねき猫はまぬけ猫?』1365円・リール (7)『歌集 てんとろり』1365円・書肆侃侃房 (8)『松田優作と七人の作家たち』2310円・弦書房 (9)『子どもはなぜ電車が好きなのか』1890円・冬弓舎 (10)『遠野むかしばなし』1200円・熊谷印刷出版部 (11)『新装版 不思議の国のアリス・オリジナル』2100円・書籍情報社 (12)『なせば成る!』840円・山形大学出版会 (13)『河野裕子』1890円・青磁社



## 〔三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書〕※税込み価格

- (1)『東京かわら版 3月号』420円・東京かわら版 (2)『酒とつまみ 13号』400円・酒とつまみ社 (3)『武蔵三田氏』2625円・岩田書院 (4)『松田優作と七人の作家たち』2310円・弦書房 (5)『歌集 てんとろり』1365円・書肆侃侃房 (6)『円周率 1,000,000 桁表』330円・暗黒通信団 (7)『葦山代官江川家と地域支配』2310円・岩田書院 (8)『大場栄と峯子の戦火のラブレター』1890円・これから出版 (9)『北海道いい旅研究室 13 book 1』690円・海豹舎 (10)『歌集 ひとさらい』1260円・書肆侃侃房

## 〔ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書〕※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『円周率 1,000,000 桁表』330円・暗黒通信団 (2)『世にも奇妙なマラソン大会』1680円・本の雑誌社 (3)『e』285円・暗黒通信団 (4)『神の詩 バガヴァッド・ギター』2100円・TAO LAB (5)『サークル村の磁場』2310円・海鳥社 (6)『素敵なフランス語のフレーズ365』1575円・カラーフィールド (7)『歌集 ひとさらい』1260円・書肆侃侃房 (8)『歌集 てんとろり』1365円・書肆侃侃房 (9)『絵本はこころの処方箋』1260円・瑞雲舎 (10)『新しい製パン基礎知識 再改訂版』1890円・パンニュース社

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。  
 本と出版流通のページ：<http://neil.chips.jp/>

# トピックス —★★★


## ▼ 3.11 東北地方太平洋沖地震

3月11日発生した東北地方太平洋沖地震において、亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈り申し上げます。また被災された方々には、心からのお見舞いを申し上げます。当センターでは、ホームページ (<http://neil.chips.jp/>) 冒頭に掲載した通り、棚から大量の本が落下したものの、幸いけが人や什器類の損傷はありませんでした。しかし、当日首都圏では電車が止まり、従業員の多くが徒歩で帰宅したり、帰宅難民となった者が社内に一泊せざるを得なくなるなど、困難な状況に直面しました。コンビニでは、いつ行っても当たり前のようであった弁当類や携帯電話充電器がどの店頭からも消えていました。しかし本当の困難は週明けからで、東京電力による計画停電の影響で、鉄道の一部が完全運休になり、出勤難民となった者が出たり、ガソリン不足で営業活動が思うようにならなかったり、運送会社さんの配送業務に遅れが出たり、等々…。業界では、紙不足で新刊数や雑誌刊行数が減る等の影響があるのではないかと心配されています。また、日本が誇ってきた出版流通システムである全国一律発売日の継続が困難な状況になっているとのことです。万全・不変と思われていた業務環境がほころびを見せています。この事態が正常化するにはまだまだ時間がかかりそうです。

## 郵便販売のご注文方法

- ◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。
  - ◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。
  - ◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。
- ★地方・小出版流通センター  
 FAX：03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



# 三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

**神保町本店 4階**  
**地方出版・小出版物フロア**

営業時間 10:00 AM～8:00 PM  
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1  
 TEL. 03-3233-3312(代)  
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の  
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

